

コード No. 28117

**Anti-Human
Tti1/KIAA0406 Rabbit IgG Affinity Purify**

容量 : 100 µg

はじめに : Phosphatidylinositol 3-kinase-related kinase (PIKK) family のメンバーである mTOR は、翻訳、細胞増殖、オートファジーの主要な制御因子であり、異なるサブユニットから成る 2 つの複合体、mTORC1、mTORC2 を構成しています。Tti1/KIAA0406 は新規の mTOR 関連タンパク質として同定されました。Tti1 は恒常的に mTORC1、mTORC2 と関連しており、ノックダウンすることによって、mTORC1 基質(S6K1, 4E-BP1)および mTORC2 基質(ATK)のリン酸化が抑制され、オートファジーが誘導されます。Tti1 は、ホ乳類細胞 において Tel2 と結合し、6 つの PIKK family タンパク (mTOR, ATM, ATR, DNA-PKcs, SMG-1, and TRRAP)を安定化させることも明らかにされました。また、Tti1、Tel2 のどちらかをノックダウンすることによって、mTORC1 と mTORC2 の分解が引き起こされることも報告されています。これらのことから Tti1、Tel2 は、mTOR の安定化だけでなくその活性維持のための mTOR 複合体の会合にも重要な因子であると考えられています。

免疫抗原 : Human Tti1/KIAA0406 の C 端部分合成ペプチド
(ASGQQNPYTTNVLQLLKELQ)

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

安定性 : 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び : ウェスタン・ブロッティング 1~5 µg/mL にて使用可能
使用方法

参考文献 : 1. Kaizuka T, Hara T, Oshiro N, Kikkawa U, Yonezawa K, Takehana K, Iemura S, Natsume T, Mizushima N. Tti1 and Tel2 are critical factors in mammalian target of rapamycin complex assembly. J Biol Chem. 2010 Jun 25;285(26):20109-16.